

## 「ただひたすらに自らを磨け PART II」

大学准教授としての仕事が来年の 3 月で終了することになったさのっち。いさどんとの面談（「ただひたすらに自らを磨け」を参照ください）後、大人会議の「心のシェア」で今の想いをみんなに報告しました。

さのっち：

今回、僕に大学の仕事がなくなった背景には色々あると思いますが、いさどんに指摘されて思ったのは、自分目線で仕事をしていて相手のニーズに応えてこなかった、自分のしたいことをする場として大学教員という立場を使っていたということがありました。そこが今回のことにつながったのだといさどんに言ってもらい、自分でも納得しました。この 2 年半を振り返ってみると、やりたいことをやってきた 2 年半でした。自分の中では「やりたいことをやって評価されている自分」と受け取っていて、そこに充実感を感じていたのですが、自分のやりたいことを満たす快感や先生としてちやほやされ評価される自分に酔いしれているところもありました。外面的な大学の教員としての評価イコール自分だと思っていたのですが、それをまとめてなくすことによって本当の自分を観る良い機会をいただいたと思っています。

いさどんと色々な話をしたのですが、ひとつはメンバーとしてここに住むということに対して、「さのっちはそれを楽な道だと勘違いしている。この道を選ぶということは厳しいことだと認識しないといけないよ」と言われ、その通りだと思いました。その背景には、僕は東京にいてすごく辛くて悲しいという想いがある、それに比べるとここにいれば癒されるのではないかという想いがあったのですが、それは一面だけであって他の面が観えていないと伝えてもらいました。僕としては、それならば話が早い、ここに来るしかないと思いました。

今までいさどんからは「さのっちには研究者として大成してもらいたい」と言ってもらっていましたが、それに答えられなかった自分が不甲斐ないという想いもある一方で、自分自身を見つめた時に、こういう現象をいただかないと気づけない自分なので、今の自分にとっては必要なことが起こったのだと思っています。みんなが「さのっち、ここにおいで」と言ってくれるかどうかはわからないので、結論はまだわかりませんが、もしここに住んだとしたら自分の土台をしっかりとつくっていきたいです。自分の中にはいつも不安定な想いがある、安心感や安定感がなく、自分を評価してくれる場があるとそちらの方にどんどん引きつけられてしまうところがありました。だから、大学側のニーズをしっかりと把握して満たすことが出来なかったところもあるので、やはりまずはきちんと自分の土台をつくり無条件の安心感を自分の中に育てていかないと、本当の意味で社会の役に立つことは出来ないと思っています。

結論としては、今の大学の仕事は来年の 3 月までで、実質授業は 1 月には終わるので、希

望としては 2 月頃からこちらに移住したいと考えています。ただ、それが本当にふさわしいかどうかというのはみんなの判断もあると思います。今後何回かここに来るので、さのっちが心変わりをしないか、心がきちんと定まっているのかをみんなに見てもらって、みんなに納得してもらえばここで暮らしたいと思っています。

自分の中には、ここに来たら「あれがしたい、これがしたい」という想いが色々あったのだけれども、それはいったん白紙に戻すつもりで、まずはここで暮らしながら流れを観ていくのがいいのかなと思っています。今自分が関わっている活動もあるのですが、それもみんなと相談の上でどうするのか決めていきたいと思っています。「自分の土台が出来て安定していれば、頑張らなくても自然とエネルギーが流れていくのだ」といさどんの話聞いて思いました。

今回いさどんとの話で一番印象に残ったのは、ありのままの自分を捨てて自然に合わせていくというルールと、自分の情熱やエネルギーを活かしていくということは矛盾していないということです。自然の中で自分を活かし、自分のエネルギーを自然に活かしていけば、頑張らなくてももっと大きな成果が得られるということです。僕は東京で色々な活動をしてきましたが、いさどんから「自分たちで地球をどうにかしようと思わなくても、地球の意志に自分を調和させていけば、その中で自然と事が進んでいくものだよ」と言われました。だから、自分の心を成長させることによって、東京で活動している仲間にもこのことが伝えられるのではと思っています。そのためにも、まずは自分をしっかりとつくる期間をここで持つことによって、大きな目で見れば人生において優れた仕事をするにつながるとしています（一同、拍手）。

いさどん：

僕はさのっちにエコビレッジの本当のあり方を伝える役割を果たしてもらいたいと思っていました。「それがくびになってしまって！（笑）」とさっき伝えたのですが、さのっちにはその役割が出来ると思っています。この人は優秀なので、さっき僕が伝えたことを口でもうマスターしていました。だから、ここで生活してさらにその心を身につけたら、そういった役割が出来るのではないかと思います。地球とコラボレーションして、これから創る理想郷を伝えられる教授はなかなかいませんが、そういう大学の先生がこれからの時代は求められると思っています。

今のさのっちの話を知ると、来年 1 年でも半年でもここにいて自分の土台をしっかりと築いたら、神様はどこかの大学に手をまわしてきつとさのっちに声をかけるのではないかと思います（笑）。これで終わりではない。僕は今のさのっちの話を知っていたら、希望が湧いてきました。しかし、本物にならないといけない。今は本物ではないから。本物ではない人がそういうことを語っていたら詐欺師になってしまいます。だから、神様から「本物になってからやりなさい」というメッセージをいただいたのだと思います。僕はさのっちが大学

にしながら本物をやってくれたらいいと思っていました。

さのっちはこんなに賢いのに、こんなにも僕の言っていることがわからない人も珍しい(笑)。ということは、それだけ思い上がった情熱が強いということも言えます。しかし、さのっちのその情熱を地球が求めていることにシフトさせたら、それこそ外国に行ってこういったあり方を伝えるような人にもなるのかなと思いました。

先日のメールで、「僕は東京にいることの方が厳しいと思うから、木の花で楽な道を選ぶことがいいのかどうか」と言っていたように、さのっちの認識が違うのものはなはだしい。東京ではアルバイトでも何でもお金があれば何とか生きられます。しかし、ここではみんながどれほど真剣に毎日心を磨き、そしてそれが出来なければここにいられなくなるとしたならば、どれほど厳しい道なのか。さのっちはその反対だと考えていたのだから、「さのっちの見解は全然違う」と思っていました。僕らは世の中がそうなるために大きな役割をいただいているのですから、ここでさのっちをみんなで育てていかないといけないとも思いました。しかし、「育てられるさのっち」ではなく、自分から積極的にそれをマスターし、かつ実践の現場を通して伝えられる大学の先生になってもらいたいと思います。

ここには大学関係者が沢山来るので、「うちの仕事を手伝ってくれない？」という話がある可能性はいくらでもあります。それが自由というものです。自分で「こうなったからあんなる」と考え可能性を閉じ込めていては、好きなことをやっているようでいて実は不自由な生き方をしている、ということにそろそろ気づく必要があると思います。みんなも希望が湧いてきませんか？今回のさのっちのことは良い話だと思っています。

こうちゃん：

どんな人もここにずっと留まっているかどうかはわからないと思う。そういう必要があるのかどうかも先に進んでみないとわからない。ただ、土台をつくっておけばどこに行っても通用するし、逆にそれがないと次の未来を切り開いていくことにはならないからね。結局実践していなかったら、大学の先生たちの会合だろうがセミナーだろうが良いことを話していても、世の中が本当に変わっていくためのステップにはならない。自分という土台をしっかり築き上げて初めて、そういう人たちが集まって、平和な世界や地上天国が出来るのだと思う。さのっちにはそれにふさわしい人格者になって活躍してほしいなと思います。

みちよちゃん：

私たちって足りないんだよね。それはさのっちと私だけの話ではなくて、みんなそう。足りないからこそ、うっとくるようなことを目の前に与えられる。でも、それに対して抵抗している間は何も変わらない。全体のことを考えてうっとする方を選択していくと、そう選択した時点でうっとすることをもらわずにすむ何か起きてきたりして、「自分を試されたな」と思う。

いさどん：

腹が決まると、そういった現象は必要なくなるんだよ。

みちよちゃん：

そうなの。私は「こういうことか！」という体験を日々重ねていくうちに、自分にふさわしい役割を果たす心をつくってもらっているんだなと思います。だから、今回のことはさのっちにとってすごく良い機会だと思っています。「くびになった」というと聞こえは悪いけれど、でも木の花に導いてもらい、心を立て直してみんなの役に立つトレーニング期間をいただいたのだと思う。「ここに来ると東京でしていた活動が出来なくなる」と心配するのではなくて、一度手放して眼の前にあるものをやっていると、そちらの方とももっと良い形でつながって自然な流れが出来ていくというのは、私自身がここに来てから体験していることから、それをさのっちにも体験してほしいと思います。

のりちゃん：

さっきさのっちから、「自分がここにいるのにふさわしいのかどうか」という言葉が出たよね。私も足りないところばかりだけれど、ふさわしくあるために日々目指している。ここまで来たら OK というものではないからね。これは死ぬまで成長し続けていく道だから。ここには色々な心の事例があって本当に勉強になると思う。そのベースは学ぶことにあると理解出来ていれば、進んだ先に成長出来た自分に出会えるのだと思います。一緒に歩いていきたいなと思います。

きょうこちゃん：

今回のことは神様がこういうふうにしたのだと思っていて、本当に良かったなと思っています。今までに何回もさのっちの心が揺れるということがあり、東京とここだと距離があって難しいのかなと思っていたけれど、心が出来ればきっとまた役割を与えてくださるから、心変わりせずやっていってほしいなと思いました。

まこっちゃん：

のりちゃんが言っていたように、ふさわしいかどうかよりも、学び続けていこうと想う人がふさわしいのだと思う。だから、学んでいこうという気持ちが大事だし、それさえあればいいのかなと思います。

まっちゃん：

ともにやっていけると思うと楽しみです。今までさのっちは東京にいたからたまに会うだけで、正直さのっちとじっくり話したことがなかった。さのっちがここに来て、しっかり自分と向き合って成長していく姿を見るのを楽しみにしています。

いさどん：

ここには優秀な人が沢山集まっています。優秀というのは、物理的な優秀であったり、学問が出来る優秀や知恵の湧き出る優秀、多様な優秀と色々あります。これをどんどん活かさないといけないと思っています。では活かすためにどうしたらいいのかといたら、それぞれが己をなくして地球の意志に合わせた時に、個人的な優秀が地球に貢献出来る優秀に変わります。地球とコラボレーションして優秀を活かせるという人につながります。これは過去の宗教や悟り、個の目的を持っていた世界を超える流れだと思っています。それは人類の悟りです。私がなぜここに生まれて、私の生きる目的は何であって、私の道の最終到達地点は何なのかというのが悟りです。個の我を超えた悟りというのは、人類がなぜここにいて、どういう目的でいるのか、その最終到達地点は何なのかということにつながります。それは個に対して与えていた過去の悟りの道を超えた世界です。まさしく 20 世紀ではなしえなかった 21 世紀にもたらされる世界です。

さのっち：

みんなから沢山のあたたかい言葉をもらって嬉しく思っています。この 2 年半の学びというのは、自分の中に平和がなければ本当の平和をつくる事が出来ないということです。自分の中に不調和を抱えながらその不調和を埋めるために調和の活動をしようとしても、結局は不調和をつくってしまうということが自分を振り返ってみてよくわかりました。

いさどん：

それは良い学びです。うつ病を理論的に語るよりも、経験した人がその経験を語るの方が大事だとしたら、賢いけれど出来の悪いさのっちが語ると力がある（一同、爆笑）！

さのっち：

ずいぶん時間はかかったけれど（笑）、自分にとっては大きい学びでした。「時間を沢山かけているようでも、自分の中を調和させることの方が実は一番早いのだ」と気づいたので、それをやっていきたいと思います。自分の中を真っ直ぐにしていけないと、世界のもつれたものを真っ直ぐにすることは出来ない。そういう気づきを今回はもらえたと思っています。

こうちゃん：

さのっちは自分の目線で見ると、「遠回りしたな、時間がかかったな」と思っているかもしれないけれど、いつも最短距離でベストな気づきをもらっているからね。

いさどん：

重みがあるものを押し上げる時にはさっと出来ないように、それだけ値打ちがあるから時間をかけて仕上げないといけなかったということだよ。

ひろっち（司会）：

さのっちからも最後に良い話が聞けたし、今日はいつもと空気も違っていたね。では、さの  
っちは 2 月からここで一緒に暮らすということで共にやっていきましょう！（みんなから  
のあたたかい拍手が大ホールに響きます。）